

約10年ぶりに

新たな2件が登録

町指定文化財

歴史を紡ぐ

「栗山」の記憶



1_ 角田村道路元標 (写真右・農村環境改善センター前に設置) 2_ 角田神社奉納額 (絵馬)『武内宿禰と誉田別命 (応神天皇)』(写真左・角田神社内に掲示)

●角田村道路元標

大正8年に勅令第460号で公布された道路法施行令では、市町村単位での道路の起点・終点および町村の位置を示す指標として、道路元標の設置が義務付けられた。角田村道路元標は、国の「勅令第460号」で公布された道路法施行令や、北海道庁「告示第220号」、「内務省令第22号」などに設置が明記されている。また、旧角田村役場の所在地に建てられたものであり、道路に付属する基標であり、各市町村間の里程を示す指標でもある。

●角田神社奉納額 (絵馬)『武内宿禰と誉田別命 (応神天皇)』

角田神社奉納額の『武内宿禰と誉田別命 (応神天皇)』は、大正6年に佐倉 (堀田) 農場から角田神社に納められたもので、絵馬の画題は伝説上の人物である武内が、後に応神天皇となる誉田別命を抱くのが描かれている。奉納額は、戦前栗山の農業では中心の大農場制度を間接的に記録する資料であり、また有力な大農場であった福井農場を継承した佐倉農場を、栗山で唯一確認できる資料であることや、佐倉農場、高木農場をはじめ、角田神社が地域の信仰の中心として住民や大農場とのつながりを示すものである。

1月26日に開かれた栗山町定例教育委員会では、文化の有識者などで構成される町文化財保護委員会 (青木隆夫委員長) から「町指定文化財相当」として答申のあった上記の2件が町指定の有形文化財 (歴史資料) に指定されました。

町指定文化財は、栗山町文化財保護条例 (平成16年4月1日施行) に基づき、「町にとって歴史上又は学術上 (芸術上、鑑賞上) 価値の高いもの」のうち、「町にとって特に重要と認めるもの」として保護するものです。

これまで泉記念館、角田獅子舞、泉麟太郎君記念碑などが指定されており、平成25年以来10年ぶりの登録となり、全12件となりました。

未来に伝える貴重な遺産

文化財は、栗山の歴史と文化を雄弁に物語るモノメントです。今回、文化財保護委員会では、新たに2件の文化財答申を終え、栗山の歩んだ「時の証」を示すことができました。

文化財は地域のアイデンティティを示すものでもあり、これからも栗山の未来に向けて、大切に守り・残し・伝える、貴重な遺産・財産だと感じています。



町文化財保護委員会
委員長 青木 隆夫さん

栗山学び隊 Vol.34

成長を感じた1年間

有馬 美緒さん (北海道介護福祉学校2年)

札幌市出身の有馬さん。中学生の時、職場体験で老人ホームに行ったことがきっかけで介護福祉士になることを決めました。「利用者さんと施設の方が笑顔で話している姿が印象的で、介護に対するイメージが変わりました」と話します。

入学時、勉強についていけるか不安があった有馬さん。「先生からみんなスタートは同じと言われて、勉強の

スイッチが入り、毎日暇を見て実技試験の練習をしていました」と話します。今では「テストで高得点が取れて自信に繋がっています」と1年間で自身の成長を実感している様子でした。

最後に、自分が目指す介護福祉士の理想像を聞くと「利用者さんの想いを周りに伝えられる介護福祉士になりたいです」と笑顔で話していました。

介護福祉学校に通う皆さんの様子をお届けします。
※今月の栗山高校の紹介はお休みします。



北海道日本ハムファイターズでは、2022年まで実施してきた「北海道179市町村応援大使」をリニューアルし、2023年から新たに「北海道応援大使プロジェクト」を今後10年間で展開することになりました。

これまでは、道内の地域バランスを重視して対象市町村を決定し



令和5年は、栗山町も含めたオール北海道ボールパーク連携協議会参加の17市町村で実施されることが決定し、12月までの間、観戦ツアーや応援メッセージなど、さまざまな企画を通じて地域活性化に繋がる取組を行います。

町民一丸となって北海道日本ハムファイターズを応援していきましょう！



現在プロジェクトの一環として、今川優馬選手のサイン入りユニフォームを役場に展示しています